
 *  *
 *
 *
 *
 *
文化財ニュース
 *

第16号

発行 加古川市教育委員会
 編集 加古川市文化財審議委員会
 加古川市加古川町北在家23の1
 TEL (24) 1151

民俗資料提供のおねがい

最近、私たちの祖先が使用してきた日常の生活用具や生産用具などが、生活様式の急激な変化によって使用できなくなったり、不用になって見捨てられたりして、姿を消していくとしています。

これらの民具類は、私たちの祖先の生活の歴史を物語る貴重な民俗資料であり、学校教育や社会教育の学習教材でもあります。

現在教育委員会では多数の方々のご協力とご寄贈により、3月末現在で400点の資料収集ができました。

資料を種類別に分類してみると、次のようになります。

衣・食・住	家 具	16点
	灯火用具	16
	調理・飲食	30
	衣 服	8
	履 物	2
	装 身 具	10
	裁縫用具	5

生産・生業	農 具	180
	山樵用具	4
	漁撈用具	1
	畜産用具	1
	紡織用具	17
	工匠用具	11
	諸職用具	41

交通・運輸 通信	行 旅 具	1
	運 搬 具	4

交 易	商 業 用 具	6
	計算・計量具	18
	鑑札・看板類	2
	証書・手形類	3
	印 章 類	1

民俗知識	教 育 用 具	5点
	保 健 具	8
	計 時 用 具	4

人 の 一 生	育 児 用 具	1
	祝 用 具	3
	葬 送 用 具	2

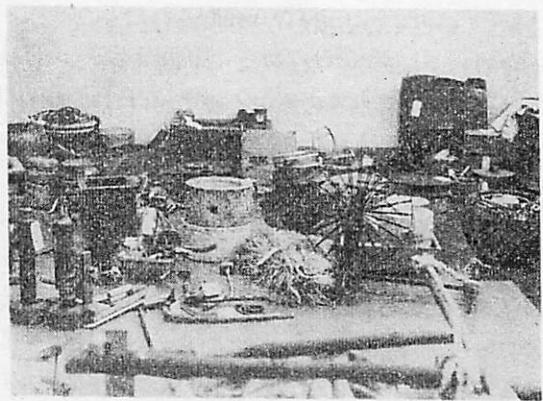
以上のように農具類は多数収集できましたが、まだまだ充分ではありません。

そこで皆さんのご家庭で不用になった生活用具や生産用具（例えば、衣食住に関するもの、生産、生業に用いられた道具、商売に用いられたもの、信仰や社会生活に用いられたもの、芸能や娯楽に使われたもの）などがございましたら、ご寄贈いただきたく存じますので、趣旨をご理解いただきご協力たまわりますようお願い申し上げます。

連絡先 社会教育課文化係

TEL 24-1151 内線579・514

又は23-3845 23-3846



一西神吉町の 文化財をたずねて—

教育委員会では、例年文化財教室の一環として、市内に残されている文化遺産をたずねる講座を開いておりますが、本年度は西神吉町の文化財をたずねました。

昭和49年12月1日の日曜日、初冬とはいえ晴天のうちに非常に暖かい絶好のハイキング日和に恵まれ、小学生から老人まで約30人の老若男女が参加いたしました。

9時30分、宮前バス停を出発した一行は、まず宮前と神吉の境で、農道脇の祠の中にまつられる2基の道標から見学。今では農道として使われている細い小道も、昔は北条、志方方面から加古川方面へ向う重要な道であったことが、この道標によってもよくわかります。近くの繩かけのある家型石棺の蓋、道標、石仏を見て、八幡宮へと歩を進めると、この宮には天正3年に時の神吉城主民部大輔源頼定寄進の銘がある灯籠が残されています。しかしこの灯籠は形から見て天正時代のものかどうか疑わしい。

山火事に黒こげの木の幹や枝だけが残り、ふだんは人があまり通らないため、あるかなきかの山道をさがしながら、頂上に残る宮山古墳を目ざして急な山道をのぼると、好天のため汗で肌着がぬれてしまう。頂上でしばらく周囲の景色を眺めながら小休止する。広々とひらけた神吉、大国の里を見おろし、遠く繩文、弥生時代に思いをはせながら、中西廃寺跡から神吉城跡へと目を移し、古代人が生活した当時の面影がかけらすらも感じられぬ現代の繁栄を目のあたりにして、歴史の移り変りの激しさがひしひしと胸に迫ってくる。

山をおりて、宮前の石仏を見る。家型石棺の蓋に彫られた南北朝時代の石仏と、石棺の底石が立てられています。この近くの古墳から発掘されたものでしょう。

初冬の日ざしを浴びながら、中西廃寺跡へと歩を進めると、大きな自然石の塔の心礎に、白鳳時代の壮大な寺院がしのばれます。この地方は当時からよく開け、文化の程度も高かったことでしょう。

コースからはずますが、すぐ近くの神吉の那須の与一さんをたずねました。ここは弓の名人で名高い那須の与一が、ここにあった寺で病氣で亡くなったといわれており、昔那須の与一を信仰していた人が、この場所に那須の与一がまつられており、石棺に彫られた2面の石仏のうち半分に折れた方が那須の与一として

まつられているものだ、ということを夢のお告げで知られ、それからここが那須の与一さんとして世間に広く信仰されるようになったといわれ、ご利益は往生の時に長わざらいをせずにすむ、といわれていて、婦人のおまいりが多いところです。

ついで、中西にある石井の清水を見学、ここには中西廃寺の塔に使われていた石造の露盤や刹が使われていて昔から昼夜を分たずこんこんとわき出る美しい清水でのどの乾きをいやす。この清水は播磨鑑などの古い文書にも記載されていて、昔から茶の湯によく使われていたということです。

午前中の最後のコースである大国の常福寺へ向う。ここには二面の石仏があり、一面には家型石棺の蓋に阿弥陀像が彫られ、もう一面には石棺の底石に地蔵像が彫られています。いずれも南北朝時代から室町時代初期に造られたものと思われています。この阿弥陀像の石仏には光背が美しく彫られています。

これで午前中の予定を全部終了し、常福寺の本堂をお借りして各自持参の弁当を開く。熱いお茶の接待を受け、畳の上で疲れた足を延ばしてしばらく休憩させていただく。

午後は常福寺裏の石仏の見学から始める。ここには石棺材に彫られた石仏を中心、多くの石仏がまとめてまつられています。

歩を進めて大国墓地の石仏を見る。この石仏は家型石棺の蓋に坐像が彫られ、室町時代も半ばを過ぎたころのものと思われます。

ついで辻3号墳へと足を向ける。小さな神社の境内に、石室の石が露出して並んでいます。ここの中には貝塚もあるようです。

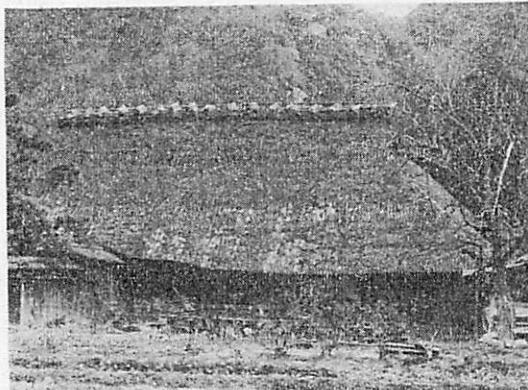
周囲を民家に囲まれた辻2号墳は、石室部分とその周辺部だけが残されています。北側はがけになっていて、昨年9月の大雪でがけくずれを起しており、この古墳の保存と合わせて民家を保護するために、このがけくずれの部分は修理されることになっています。

県道端に残されている小型の家型石棺の蓋や、辻姫の墓としてまつられる大型の石棺の蓋を見たのち、岸の墓地にある弥陀三尊の板碑を見る。家型石棺の蓋の裏側に、月輪中に彫られた梵字が美しい。しかし、ここも開発の波に洗われ、埋れかかっているのが痛々しい。最後に岸の正岸寺の境内に保存されている石仏を見学し、これで今日の日程を終了、本日の行程約6km好天に恵まれ楽しいハイキングでした。参加者一同次回の文化財めぐりを約して解散しました。

—淡河・山田の谷にのこる 文化財をたずねて—

昭和49年度加古川市文化財教室第8日目は恒例の県下文化財見学会を実施しました。

学級生80名のなかから希望者30名を募り、2月16日午前8時30分、マイクロバスで加古川駅前を出発しました。小春日和を思わせるようなやわらかい冬の日ざしをあびながら最初の目的地三木市志染町大谷の伽耶院へと向いました。



箱木の千年家

大谷山伽耶院は天台宗の山伏の寺として知られ、大化元年(645)、法道仙人の開基として、孝徳天皇の勅願により建立されたものだと言われております。平安中期には堂宇数十、坊塔130余坊と記されていますが、豊臣秀吉による中国征伐に際しての三木城攻めの兵火及び慶長14年の失火により全山ことごとく焼け落ちてしまい、現在の諸堂は慶長15年以降、諸大名の寄進によって建てられたものです。その中で、本堂は单層寄棟造、本瓦葺で慶長15年の建立で、兵庫県指定重要文化財になっています。内陣で住職からお寺にまつわる話を拝聴し、その後、藤原時代に製作された重要文化財毘沙門天木像や、鎌倉時代の衝立、嘉暦2年(1327)在銘の大般若経写本六百巻、室町時代の十二天仏画などの宝物を見学しました。三間社流造一間向拝付の鎮守三坂社も慶長15年建立で県指定重要文化財になっています。その他にも寛永8年の行者堂、正保4年の多宝塔、明暦2年の開山堂などがあり、小1時間の学習を楽しみました。

伽耶院を後にして、神戸市北区へ入り、淡河町の石峰寺へバスを進めました。新築なった客殿を開放しているだけ、事務局の用意した弁当で昼食をとりました。その後各自思い思いに石峰寺の境内を見てまわりました。この寺も法道仙人の開基といわれ、白雉2年(651)に建立されています。天平19年(747)行基により薬師堂が建てられ、弘仁14年(823)に嵯峨天皇の勅願により三重塔を建立しています。薬師堂・三重塔はともに大正4年3月国の重要文化財の指定をうけています。なおこの三重塔は県下では一番高く、81尺といいますから約27mあります。また什物として県指定重要文化財に鰐口があり、正和4年(1315)の刻銘があります。住職が不在だったので寺についてのくわしい説明が聞けなかったのが心残りでした。

同じ北区の山田町福地には“観光バスの行かない埋もれた古寺”といわれている若王山無動寺が帝釈山、丹生山そして稚児墓山といった靈峰に囲まれ、静かにたたずんでいます。2.7mの高さを誇る大日如来座像は藤原時代初期の一木彫りでボリュームの点では他に例がないぐらいです。釈迦如来座像、阿弥陀如来座像、不動明王座像、そして十一面觀音立像が本堂の奥の収蔵庫に安置されていました。毎年2月5日に寺と鎮守社を中心とした「いつかまつり」という民俗行事が有名です。すぐ近くに国指定重要文化財“八幡神社の三重塔”や平清盛が寄進した丹生山全図とか豊臣秀吉の書状や朱印等が陳列されている丹生宝庫があり、このあたりは平安時代以来の文化財の宝庫です。

同じ山田町の衝原には、大同元年(806)の建築といわれる“箱木の千年家”があります。当時のカンナを使わない手斧の跡がみられる5本の柱に平安時代の建物の名ごりをとどめていました。この家も現在建設中の呑吐ダムによって移転を余儀なくされているとのことでした。千年家を出発するころから雪が舞い、三木市をすぎるころまでずっと降り続いていました。

冬の一日、建造物を中心に彫塑工芸美術品等加古川以外の文化財をつぶさに見学し、より一層文化財を後世にうけ継ぎたいと、一同心をあらたにして加古川駅前で解散しました。

「砂部遺跡」 春期調査始まる

播磨権現ダム建設にともなう工業用水道管布設工事に関連して、東神吉町砂部地区の砂部遺跡（弥生時代の遺跡）にかかる部分の発掘調査を、昨年8月の試掘12月から1月にかけての冬期調査に引きつづいて、このたび春期調査を開始いたしました。

冬期調査においては、昨年8月の試掘によって遺構が発見された部分の北端部分を発掘して、弥生時代前期から古墳時代にわたる溝やピットなどの遺構や遺物多数が発見されました。このたびは調査予定地の南端部分を中心に発掘調査しております。

調査開始以来、これまでに建物の柱跡と思われる遺構や溝などが検出され、もっか調査員の東洋大附属姫路高校教諭上田哲也氏を中心に、神戸女子大教授浅田芳朗氏、別府小学校教諭中溝康則氏、神戸大学助教授多瀬敏樹氏などの指導のもとに、発掘調査をつづけております。

いずれ調査結果は、次号でご報告できると思います。



砂部遺跡調査風景

郷土のおはなしとうた 第2集 近く発行

市教育委員会では、郷土に伝わる民話や伝説、民謡などを記録保存するため、昨年度から収集委員を依頼して、これらの民話や伝説、民謡などを収集し（旧加古川町、氷丘地区、神野町、別府町）、これを“郷土のおはなしとうた第1集”として発行しました。

本年度は、加古川町鳩里地区、野口町、八幡町、平荘町の4地域について、これらの資料を収集していた

だき、編集委員による編集作業も終り、現在印刷中で近く“郷土のおはなしとうた第2集”として発行する予定になっております。

発行になれば、希望者には実費で有償頒布させていただきますのでご期待ください。

石造文化財映画近く完成

昭和47年度から3か年計画で製作を進めていた、16%カラーによる石造文化財映画は、これまでに石仏編道標編、五輪塔編の3巻が完成し、すでに市民のみなさんに見ていただいておりますが、その後も計画どおり製作が進められ、いよいよあの宝篋印塔・層塔・宝塔編、笠塔婆その他編、総集編の3巻が近く完成する運びになっております。

これらの文化財映画は、市内にたくさん残されている石造文化財をより多くの市民の方々に見ていただき郷土の文化財についての理解を深めていただくとともに、これらの貴重な文化遺産をいつまでも子孫に継承していくかなければならないことをPRするために、教育委員会が文化財審議委員会の監修のもとに製作を進めているものです。

いずれ完成の暁には、学校における教材映画としてまた社会教育における各学習講座の教材映画として活用していただきますようご案内いたします。

なお、これらの映画はフィルムライブラリー（TEL 23-3845、3846）に保管しておりますから、ご使用になりたい時は、前記フィルムライブラリーへお申込ください。

これまでに製作された映画をご紹介します。

- 土はもう語らない(16%白黒) 40分
- 刀田山鶴林寺(16%カラー) 40分
- 鶴林寺宝物編(16%カラー) 15分
- 〃 本堂修理編(16%カラー) 15分
- ふるさとの道しるべ(16%カラー) 25分 道標案内
- 野辺の石仏(16%カラー) 20分 石棺仏の案内
- 昔を語る五輪塔(16%カラー) 20分 五輪塔の案内
現在製作中で近く完成するもの。
- 苔むす石塔(16%カラー) 20分
宝篋印塔、宝塔層塔編
- 歴史を刻む石造の美(16%カラー) 20分
その他の石造遺品
- 石造遺品総集編 市内全域の石造遺品案内
石は語る鹿児の里(16%カラー) 40分